第三講『源氏物語』　教育学部

次の文章は『源氏物語』の一節で、浮舟のもとを中将が訪れる場面である。入水後助けられた浮舟は横川の僧都の妹尼と暮らしていた。中将来訪時、妹尼は不在で、少将の尼という人物が応対した。これを読んで、後の問いに答えよ。

月さし出でてをかしきほどに、昼、文ありつる中将おはしたり。あなうたて、こはなぞ、とおぼえたまへば、奥深く入りたまふを、「さもあまりにもおはしますかな。御心ざしのほども、あはれまさるをりにこそはべるめれ。ほのかにも、1聞こえたまはんことも聞かせたまへ。しみつかんことのやうに思しめしたるこそ」など言ふに、いとうしろめたくおぼゆ。おはせぬよしを言へど、昼の使の、一ところなど問ひ聞きたるなるべし、いと言多く恨みて、i「御声も聞きはべらじ。ただ、け近くて聞こえんことを、聞きにくくしとも思しことわれ」と、よろづに言ひわびて、ii「いと心憂く。所につけてこそ、もののあはれもまされ。あまり2かかるは」などあはめつつ、

A「山里の秋の夜ふかきあはれをもの思ふ人は思ひこそ知れ

おのづから御心も通ひァぬべきを」などあれば、iii「尼君おはせで、紛らはしきこゆべき人もはべらず、いと世づかぬやうならむ」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

と責むれば、

B　うきものと思ひも知らですぐす身をもの思ふ人と人は知りけり

わざと言ふともなきを、聞きて伝へきこゆれば、いとあはれと思ひて、iv「なほ、ただ、いささか出でたまへと聞こえ動かせ」と、この人々をわりなきまで恨みたまふ。v「あやしきまで、つれなくぞ見えたまふや」とて、入りて見れば、例はかりそめにもさしのぞきたまはぬ老人の御方に入りたまひィにけり。あさましう思ひて、3かくなん、と聞こゆれば、「かかる所にながめたまふC心の中のあはれに、4おほかたのありさまなども情なかるまじき人の、いとあまり思ひ知らぬ人よりもけにもてなしたまふめるこそ。それももの懲(ご)りしたまへるか。なほ、いかなるさまに世を恨みて、いつまでおはすべき人ぞ」などありさま問ひて、いとゆかしげにのみ思(おぼ)いたれど、こまかなることは、いかでかは言ひ聞かせん、ただ、「知りきこえたまふべき人の、年ごろはうとうとしきやうにて過ぐしたまひしを、初瀬に詣であひたまひて、尋ねきこえたまへる」とぞ言ふ。

姫君は、いとむつかしとのみ聞く老人のあたりにうつぶし臥して、寝(い)も寝られず。宵まどひは、えもいはずおどろおどろしきいびきしつつ、前にも、うちすがひたる尼ども二人臥して、劣らじといびきあはせたり。いと恐ろしう、今宵この人々にや食

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

はれ(ウ)なんと思ふも、惜しからぬ身なれど、例の心弱さは、一つ橋危がりて帰り来たり[D]者のやうに、わびしくおぼゆ。(注)こもき、供に率ておはしつれど、色めきて、このめづらしき男の艶だちゐたまへる方に帰り往(エ)にけり。今や来る、今や来ると待ちゐたまへれど、いとはかなき頼もし人なりや。

中将、言ひわづらひて帰り(オ)にければ、「いと情なく、埋もれてもおはしますかな。5あたら御容貌(かたち)を」など譏(そし)りて、みな一所に寝ぬ。

注
こもき……女童の名前。

問一　傍線部1「聞こえたまはんことも聞かせたまへ」を、それぞれの動作の主語を明示して現代語訳せよ。

問二　会話文ⅰ～ⅴの中で、少将の尼が主体として話しているものはどれか。次のア～オの中から一つ選べ。

ア　ⅰとⅲ　　イ　ⅱとⅳ　　ウ　ⅲとⅴ　　エ　ⅰとⅱとⅲ　　オ　ⅱとⅲとⅴ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　傍線部２「かかる」の意味として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選べ。

ア　浮舟のすげない態度に中将が恨みを言いすぎること
イ　中将の思いを浮舟がまったく聞こうともしないこと
ウ　浮舟がひとりにされてあまりに心細そうにしていること
エ　初対面の浮舟に対して中将があまりに深く思いすぎること
オ　秋の夜といい山里といい、時も所も風情がありすぎること

問四　Ｂの歌「うきものと思ひも知らですぐす身をもの思ふ人と人は知りけり」は、Ａの歌「山里の秋の夜ふかきあはれをももの思ふ人は思ひこそ知れ」に対してのどんな返答になっているか。最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選べ。

ア　Ａでお互いに「もの思ふ人」だと決めつけていることに対して、私のことを悩みのある人だとよく知っていますねと切り返した。
イ　Ａが恋の悩みで秋の情趣も解さないと責めたのに対して、もののあはれを知っている「もの思ふ人」だと言ったのはあなただと切り返した。
ウ　Ａが「もの思ふ人」はもののあはれを知っていると言ったのを、言われてみるとたしかにそうで、私の心の内をよく知ってくれていると共感した。
エ　Ａで秋の夜の風情があはれだと言っているのに共感して、普段はあまり風情を解しない私も今日はことさら「もの思ふ人」になっていると応じた。
オ　Ａが「山里の秋の夜ふかきあはれ」とこの場所の今の様子を決めつけているのに対して、そんな「うきもの」だとは思ってみなかったと切り返した。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　二重傍線部ア〜オの中に、一つだけ文法的に異なるものがある。その記号を一つ選べ。

問六　傍線部３「かくなん」が具体的に指している部分を抜き出し、その初めと終わりの三文字を記せ（句読点は含まない）。

初め＝　　　　終わり＝

問七　空欄Ｃ、Ｄには助動詞「らむ」または「けむ」が入る。それぞれに合う助動詞を適切な形にして記せ。

Ｃ＝　　　　Ｄ＝

問八　傍線部４「おほかたのありさまなども情なかるまじき人の、いとあまり思ひ知らぬ人よりもけにもてなしたまふめるこそ」はどのようなことを述べているか。最も適切なものを、次のア〜オの中から一つ選べ。

ア　情緒過多に思える人が非情な人よりも優しく接してくれるのは当然のことだということ。
イ　冷淡な様子の人が恋の情趣を解する人よりもほんとうは熱い思いを秘めているということ。
ウ　情を解するように見える人が解さない人よりもひどい応対をするのは理解に苦しむということ。
エ　優しそうな人が引っ込み思案な人よりも隠れて出てこないのは気分を害しているためだということ。
オ　教養がありそうな人が無教養な人よりも思わせぶりな態度をとるのはかえって興ざめだということ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問九　傍線部5「あたら御容貌を」に込められた尼の気持ちとして、最も適切なものを、次のア〜オの中から一つ選べ。

ア　せっかく美しい顔立ちをしているのに、話ができないのではこのまま山里に埋もれてしまうと非難している。
イ　美しい顔立ちをしているために、わざわざ訪れた人にもすげない態度を取ってしまうのだと惜しいと思っている。
ウ　言い寄られても、ただ嫌がっているだけでは、こんなに美しい顔も台無しの顔になってしまうとたしなめている。
エ　せっかく美しい顔立ちをしているのに、あっさりと帰ってしまうなんて思いを埋もれさせるだけだと残念がっている。
オ　あまりに美しい顔立ちをしているだけに、人並みの対応ができないでいることが目立ってしまうと情けなく思っている。

問十　本文と合致する内容として、最も適切なものを、次のア〜オの中から一つ選べ。

ア　老人達は中将に関心を抱いていたため、わざと浮舟を恐がらせるような行動を繰り返した。
イ　中将に思いを寄せていた女童は、浮舟に嫉妬して、自分が浮舟よりも艶っぽい女性であるように振る舞った。
ウ　中将は心優しい理想的な人物で、浮舟に同情し、この醜悪な環境から早く救ってあげたいと強く望んでいた。
エ　中将は浮舟に好意を持ち、彼女のことを少将の尼に尋ねたが、はぐらかされるような答えしか得られなかった。
オ　浮舟は内心中将に心惹かれながらも、過去の不幸な経験によって男性への不信感をぬぐえずわざと拒絶する態度に出た。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　復習問題

① 「かしこにはしはべるなる」の傍線部と文法的に同じ意味の「なる」「なり」を含む和歌を、次の中から一つ選べ。

イ　厚氷くだきし跡の見ゆるなり山下清水くむ人やたれ
ロ　世の中のあはれなるには大空の雲も涙を惜しまざりけり
ハ　嘆けとて月やはものを思はするかこち顔なる我が涙かな
ニ　世にふれば又もこえけり鈴鹿山昔の今になるにやあるらん
ホ　あしびきの片山きぎすうちはぶき妻ごひすなり春のあけぼの

② [X]（本設問では省略）には「もったいない、惜しい」の意味の語が入る。[X]に入るものとして最も適当と思われるものを、次の中から一つ選べ。

イ　うたてしく　　ロ　ゆゆしく　　ハ　おほけなく
ニ　いたはしく　　ホ　あたらしく

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③　次の文章を読んで、あとの**問**に答えよ。

保胤が日本往生極楽記を著はしたのは、此の六条の池亭に在つたときであらうと思はれる。（中略）天元五年の冬、其家は成り、其記は作られたが…。（以下略）

注　天元五年…九八二年。

問『日本往生極楽記』とほぼ同時期に成立した作品を、次の中から一つ選べ。

イ　懐風藻　　ロ　保元物語　　ハ　宇治拾遺物語　　ニ　三宝絵　　ホ　古今和歌集

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第三講】

〔模範解答〕

問一　中将様が（あなたに）申し上げなさるようなことを、浮舟様よ、あなたはお聞きになってください。
問二　ウ
問三　イ
問四　ア
問五　エ
問六　初め　例はか　　終わり　にけり
問七　C　らむ　　D　けむ
問八　ウ
問九　ア
問十　エ

〔現代語訳〕

月が照り出して趣深い頃に、昼間、手紙があった中将がいらっしゃった。（浮舟は）ああ嫌だ、これはどういうことか、と思われなさるので、奥（の部屋に）深く入りなさるのを、（少将の尼が）「それもあんまりでいらっしゃるなあ。（中将様があなたに寄せる）お気持ちのほども、ますますしみじみと感じられる時節であるようです。少しでも、（中将様があなたに）申し上げなさるようなことも（あなたは）お聞きになってください。（中将様の言葉を聞くだけで）深い仲になりそうなことのようにお思いになっているのは（ばかげたことです）」などと言うので、（浮舟は、少将の尼が中将を部屋に入れるのではないかと）とても不安なことに思われる。（浮舟が）いらっしゃらないということを（少将の尼は中将に）言うけれど、昼間の使者が、（尼君は

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

不在で浮舟が）お一方（で留守居をしている）などと尋ね聞いていたのであるにちがいない、（中将は）とても長々と言葉を尽くして恨み言を言って、「お声も聞かないことにしましょう。ただ、（私があなたの）近くで申し上げるようなことを、耳障りだとでも判断なさってください」と、あれこれ言いあぐねて、「とてもつらいこと。（こういう寂しい土地では）場所柄に応じて、（人の心も）ますますしみじみと感じられるものなのに。あんまりこんなふうであるのは（恨めしいことです）」などとなじっては、「山里の…＝山里の秋の夜更けの深い情趣をも、物思いをしている人は身にしみて感じるものなのに。おのずとお心も通ずるはずなのに」などと言うので、（少将の尼は）「尼君がいらっしゃらなくて、（あなたの代わりに返歌をして中将様のお気持ちを）紛らし申しあげることのできる人もいません、とても非常識なことだろう」と（浮舟を）責めるので、

　うきものと…＝（自分でも）つらいものとは思いもしないで過ごしている私のことまで、物思いをしている人だとあなたはわかってしまうというのだなあ。

ことさら（返歌として）言うというのでもない（様子で浮舟が口にする）のを、（少将の尼が）聞いて（中将に）伝え申し上げると、（中将は）とてもしみじみと思って、「やはり、とにかく、少し（こちらへ）出て来てくださいと申し上げて連れて来てくれ」と、ここにいる人々〔＝少将の尼たち〕をどうにもならないほど恨んで責めなさる。（少将の尼が）「不思議なほど、薄情に見えなさるよ」と言って、（奥の部屋に）入って見ると、（浮舟は）いつもはほんの少しでも立ち寄りなさらない老尼君のお部屋に入りなさっていた。（少将の尼が）あきれたことと思って、これこれ、と（中将に）申し上げると、（中将は）「こんな（寂しい）土地で物思いに沈みなさっているような心中がしみじみ気の毒なことと思われ、おおよその様子などからしても情を解するように見える人が、まったくあまりにも（人の情けを）解さない人よりも一段と（薄情に）あしらいなさるようなのは（理解に苦しみます）。それというのも（男に対して）なにか懲り懲りなさっているのか。やはり、どんなふうにこの世を恨んで、いつまで（そうして）いらっしゃるつもりの人なのか（聞かせてほしい）」などと事情を尋ねて、とても知りたそうにばかりお思いになっているけれど、（少将の尼も）詳しいことは、どうして話して聞かせることができようか、ただ、「（尼君が）お世話申しあげるべき人で、長年疎遠な様子で過ごしなさった人を、初瀬に参り合わせなさって、探し出し申しあげなさった」と言う。

　姫君〔＝浮舟〕は、とても気味悪いとばかり聞いている老尼君の近くに顔を伏せて横たわって、眠ることもできない。宵の口から眠たがる老尼君は、何とも言えないほど騒々しいいびきをして、（その老尼君の）前にも、同じくらいの（年老いた）尼た

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ちが二人横たわって、負けじと一緒にいびきをかいている。（浮舟は）とても恐ろしく、今夜この人たちに食べられてしまうのだろうかと思うにつけても、惜しくはない我が身であるけれど、いつもの気の弱さは、丸木の一本橋を不安に思って戻って来たとかいう者のように、心細く感じられる。（浮舟は）こもきを、お供に連れていらっしゃったけれど、（こもきは）色気づいて、この滅多に見ることのない男〔＝中将〕がいかにも風流ぶって座りなさっている方へ戻って行ってしまった。（浮舟は、こもきのことを）もう戻るか、もう戻るかと待ちつづけなさっていたのに、（こもきは）とてもあてにならない頼み人だよ。

中将は、どう話しかけたらよいかわからずもてあまして帰ってしまったので、（少将の尼たちは）「とても情け知らずで、引っ込み思案でいらっしゃることだなあ。もったいない（美しい）お顔立ちなのに」などと悪く言って、みんな同じ所で寝た。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔**重要単語**〕

○うたてし…①嘆かわしい。気にくわない。②情けない。
○うしろめたし**【後ろめたし】**…①気がかりだ。**不安だ**。②気がとがめる。
○おのづから**【自ら】**…①自然と。②偶然。③もしも。
○わりなし**【理なし】**…①**道理にあわない**。無理である。②つらい。③しかたがない。④殊のほかである。⑤すばらしい。
○あやし**【怪し】**…①**不思議だ**。②**粗末だ**。③**身分が低い**。
○つれなし…①**冷淡だ**。②さりげない。③平気だ。④もとのままだ。
○むつかし**【難し】**…①**不快である**。②わずらわしい。③気味が悪い。
○おどろおどろし…①**気味が悪い**。②**大げさである**。
○あたら**【惜】**…**もったいない**。せっかくの。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第三講　解答解説

〔解説〕

① 問題文の傍線部「なる」は、ラ変動詞「はべり」の連体形に付いているので、「断定」か「伝聞推定」かは文脈判断が必要なものであるが、こういう場合は焦って文脈判断する前に、先に選択肢を見てみよう。選択肢イ、ハは「断定」、ロは形容動詞「あはれなり」の一部、ニは四段動詞の「なる」、ホが「伝聞推定」から、文脈判断せずとも伝聞推定のホが正解だとわかる。選択肢を見ても消去法が使えない場合は文脈判断が必要になる。いかに早く正解を出すかがポイント。

② 「もったいない、惜しい」の意味は、古文単語では「あたらし」。重要単語である。よって、正解はホ。

③ 『日本往生極楽記』の成立時期は、本文と注釈をきちんと読めば九八二年頃（＝平安中期）だとわかる。『懐風藻』は奈良時代、『保元物語』と『宇治拾遺物語』は鎌倉時代、『古今和歌集』は九〇五年に成立。よって、正解はニ。ちなみに本来は、正解を二つ選ぶ問題で、もう一つ『源氏物語』の選択肢があった。一見知らない作品であっても、焦らず文章や注釈をきちんと読めば、このように解ける問題があるので、注釈をおろそかにしないこと。『三宝絵』の成立時期（九八四年）を万一知らなくても、消去法で解けたはずである（他の選択肢の成立時代は知っておくべき）。ホの『古今和歌集』とも、八〇年の年月が隔たっているので、「ほぼ同時期」からは外せるであろう。

〔解答〕

①　ホ　　②　ホ　　③　ニ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。